

## 月報

&lt;444号&gt;

ケルン・ボン日本語  
キリスト教会

二〇一九年四月一八日発行

## 「イエスさまの眼差し」

佐々木良子

心地よい陽ざしの中、私は赴任してから四回目の春を迎えています。一昨年の総会にて任期延長が決議され、今年はその一年目の節目で、区切りの年となりました。

このような時期に次のページに報告させて頂いていますが、昨年のアドヴェントに入る直前に思いもよらず脳腫瘍が見つかり、年明け早々に入院・手術となりました。この出来事をも含めて、今までの人生を振り返ってみますと、一般的に喜ばしくないと思われるような想定外の出来事によって、今まで見えていなかった新たな信仰の道が開けていくことを経験させて頂いています。

二月の家庭集会では、与えられた病に関して、お話しさせて頂き、分ち合いの時を持ちました。人生の想定外の出来ごとに対して、大多数の方が先ず「何故こうなったか?」と原因を突き止めて自分を納得させてそこに落ち着く。場合によっては「人生、こんなもんだ!」これが私の運命だ」と、因果応報という迷信的な受け止め方などもあり得る、という声もありました。一般的にその原因を過去へ遡って探そうとしたり、また「あの時こうだったら、あーだったら」と、過去を悔やみその場に立ち止まり、前に進むことができない状況におかれてしまうものです。

しかし、主イエスにあっては、原因究明したり過

去に捕らわれたりはなさいません。』(ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。)」イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』

## ヨハネによる福音書九章一〜三節

この時の弟子たちの関心は、出来事の原因を過去に遡り、主イエスにその理由と説明を迫りました。主イエスはそのことには一切触れず、「神の御業が現れるためである」と、一言だけ仰せになりました。主イエスの眼差しは、生まれつき目がみえないという現実立ち止まらず、未来に向けている道筋・神がそこから御業を行ってくださる始まりをこらへていたのです。更に私たちがその御業を具体的にみることができるよう、既にその道備えをしてくださったのです。

本当に目が見えなかったのは、弟子たちやその廻りの人々であったと言えます。そして私たちも同じです。目の前にある困難な現実やこの世の常識に心捉われて、信仰の目が遮られて盲目になることが多々あります。私たちは真実に見るべきものを見ているでしょうか。見るべきものを見たいのではないかと、主が問うておられる気がいたします。

人間にとって本当の不幸は人生に様々の苦しみや病、多くの問題を抱えていることではありません。この世的には負と思えるような現実を全ての結果と受け止めようと、自分に納得させるような原因を究明して、そこに踏みとどまってしまい、神なき世界の暗闇の中に生きるのです。

信仰は目の前にある困難に関して、自分で自分を納得させたり、この世の常識に当てはめて考えるこ

ともありません。主イエスが約束してくださっていることは何か、神様の御心は何か、そしてご計画は何かをよく祈り、主イエスのお言葉を一つも疑わずに全面的に信頼して神と共に歩んでいくことです。

そのような歩みを通して、神様のご計画を少しずつ知ることができるよう成長させて頂けます。そしてキリストの愛の確かさ、キリストの恵みの力強さ、キリストの憐れみの深さを味わいながら、成熟した信仰者になることを、神は望んでおられます。そして更にこの世界に「希望の神」を指し示し、お証してゆくの私たちの使命でもあります。

私たちの人生は天国に帰るまで、様々な課題、苦しみ、時には病が与えられます。しかし、その困難に盲目になるのではなく、そこから始まる「神の御業」を見ることを可能にしてください。主の力に希望を置くことができる私たちです。そのためには神への全幅の信頼が必要です。それは一朝一夕で形作られるものではなく、日々神の御言葉を信頼することによって培われてゆきます。

今回、脳腫瘍と診断が下された時に、最初に頭に浮んだのが、主イエスの御言葉である「神の業がこの人に現れるためである」でした。後になって思ったことですが、御言葉の力によって直面する現実を前向きに捉えることができたので、つくづく信仰者であることの幸いを感謝しました。

主は生きておられます。その主が、この聖書箇所に見るように、今ここに生きている私たちにも目を留めていてくださいます。この世でどのような苦難を負わされたとしても、そこから始まる神の御業に期待できる信仰者である私たちの幸いを思います。

—— 佐々木牧師の近況報告 ——

昨年のアドヴェントに入る直前に、脳腫瘍の診断が下されましたが、前頁の巻頭言にも書かせて頂いたように、主の御言葉によって助けられ支えられました。この出来事を通して主は数々の奇跡の業を見せてくださいました。教会の方々を初め多くの方々と共に、神さまは確かに生きて働いておられ、最善を為してくださるお方であることを体験させて頂くこととなって感謝しております。この誌面をお借りしてお恵みを分かち合えたら幸いです。

《一月から三月までの歩み》

新年早々一月二日入院、四日に手術を受け、無事に全てを摘出して頂き、一月一九日に退院することができました。腫瘍は良性で術後は順調に快復して、退院後の翌日、一月二十日の主日礼拝から少しずつ教会のご奉仕ができるまでに体力も戻りました。

二月末には主治医の先生からの許可も頂き、例年通り宣教報告のために、日本に一月月ほど一時帰国させて頂きました。主のお守りと共に皆様のお祈りに支えられて、体調を崩すことなく、お招きくださった全ての教会を元気に訪問させて頂くことができました。

2月28日～4月3日	日本滞在
3月3日	喬木教会 主日礼拝説教・報告会
6日	京都復興教会 祈禱会・報告会
10日	国際基督教団代々木教会 主日礼拝説教・報告会
13日	洗足教会 祈禱会・報告会
14日	東京新生教会 祈禱会・報告会
15日	グッドサマリタンチャーチ訪問
17日	西宮一麦教会 主日礼拝説教・報告会
20日	柏教会 祈禱会・報告会
24日	小松川教会 主日礼拝説教・報告会
26日	日本同盟キリスト教団川奈聖書教会 火曜礼拝・報告会
27日	深沢教会 祈禱会・報告会
28日	志木教会 祈禱会・報告会
31日	荒川教会 主日礼拝説教・報告会

日本では御言葉と共に主の御業をお証しさせて頂きました。私の想像以上に日本では大変ご心配をおかけしていたことを目の当たりにし、沢山の祈りが積み重ねられていた事をヒシヒシと感じ、改めて大きな支えがあったことを知るようになりました。術後の元気な姿を見て安心して頂けて、様々な意味でこの時期に一時帰国できたのも神の時だったと思わされました。今年も多くの教会が招いてくださり、心から感謝いたします。

《脳腫瘍発見のきっかけ》

昨年九月末頃より右目が霞み、視力低下を感じて眼科で診察を受けたことから発見されました。お医者様は多くの時間をかけて丁寧にあらゆる検査をしてくださいましたが、目の異常は認められませんでした。

先生は脳の疾病を疑い、翌日にMRI、CTスキャンを撮るよつと心配して下さり検査した結果、脳腫瘍が発見されました。速やかにケルン市立総合病院の脳外科を紹介して下さり、アツという間に入院・手術が決まりました。目に症状が出たことで発見されたこと、そしてお医者様の適切な判断によって速やかに治療ができたことは、主の御業としかいえません。

《迷い》

手術に際して言葉の問題から、一時は日本での手術を考えました。しかし、病院探しや保険の問題などに直面しました。そのような時に教会の方々が、言葉の問題であれば、病院に泊まり込んで助けてくださると仰ってくださいだったのでドイツで手術を受けることを決心しました。

《神の家族》

牧師が入院・手術となれば、自ずと教会の方々に大きな重荷を負わせてしまうものです。まして病院に泊まり込む覚悟で支えようとしてくださるのですから、どれだけ迷惑をおかけするか一目瞭然です。申し訳なさい一杯でした。「もし、私が赴任していなければ、教会にこのようなご迷惑をおかけすることはなかった

のに・・・」と赴任したこと事態が申し訳なかったとすら思いました。

というのは、お騒がせは初めてではないからです。二年前に転んで膝の十字靭帯を損傷して、二カ月のギプス生活を強いられました。この時も教会の方々にご心配をおかけし、助けられた生活が続きました。今回は特に多大なご心配と迷惑をおかけすると思うと、自分の不甲斐なさにとても情けなくなりました。

このような迷惑牧師であることをお詫びしたところ「迷惑なんて誰も思っていない人はいないので、ささりました。そして、「私たちは神の家族です」と仰ってくださいました。私はとても気持ちになりました。このように世界一の家族が与えられている私は、何と恵まれている牧師かと、しみじみと幸いを噛みしめました。そのような時に主の御業も始められていたのです。

《主の御業》

入院のために留守の間の礼拝説教をY先生にお願いたく状況をお話したところ、先生が遣わされておられる教会の日本人の教会員のご息が、ケルンの病院で脳外科の主任教授をされているということをお伺いしました。連絡を直ぐとって下さり話が急展開し、そのお医者様に手術から全てを診て頂けることになりました。更に入院生活など微に入り細に巨り支えてくださり、筆舌し難い感謝でいっぱいです。

ご紹介を頂いてから僅か一週間というスピードの中で、主によって一つ一つ導かれて参りました。そのお医者様が勤務されている病院は、眼科で紹介された病院でもありました。数え挙げられない程の主の御業を見せて頂き励まされました。それは、教会の方々に初め、廻りの方々の切なる祈りと大きな愛が主を動かしたと確信しています。今度は私が廻りの方々に寄り添いながら、よき隣人となるように主に用いて頂けるよつと祈っています。



おどろきの口おどしー

張谷 麻帆

ドイツで過ごした時間は私たち家族にとっても有意義で意味のあるものとなりました。その中でも特に、息子と一緒に洗礼を受けてクリスチャンになったことは私たちの人生においても大きな出来事です。もしドイツに来ることがなく、日本に居たとしたら、こんなに早くクリスチャンになることはなかったかしれません。

仕事や日々の忙しさ、導いてくれる主人がいなくてを言い訳にして、教会への足は遠のいていたのではないかと思います。

信仰を持つことが当たり前であるドイツへ来たこと。主人や家族との時間が持てるようになったこと。ケルン・ボン日本語教会の皆さんと出会い、また近隣にたくさん教会員の方々がいらっしたこと。今思えば、私たちは導かれてドイツに来たのだと思えます。

私はまだまだ信仰初心者で勉強中ですが、日本に帰ってからも教会へ通い、息子と一緒に色々なことを学んでいきたいと思っています。

短い間でしたが、美りのある時間を過ごせたことは、佐々木先生をはじめとする教会員の皆さまの支えがあったからこそです。とても感謝しています。また、息子をたくさん可愛がってくださり、成長を見守ってくださり、本当にありがたかったです。残念ながら、ドイツでの記憶はないだろうと思いますが、大きくなったときにドイツでの生活を話してあげることが今からとても楽しみみです。

ドイツと日本と離れてはおりますが、これからケルン・ボン日本語教会との繋がりを大切に、途絶えさせることなく生きていきたいと思えます。最後に「もう一度、ドイツでの生活を支えてくださった皆さまに感謝致します。あしがいつか会いました。」

張谷 延河

二〇一六年の九月、初めての礼拝を捧げてから二年半、もつ日本に帰らないとならない時期になりました。ケルン・ボン日本語教会の建物に初めて入ったことがまるで昨日のことのようです。振り返ってみると、短い期間でしたが、私達家族にとってはもっとも大事な時間だったと言っても過言ではありません。なぜなら、妻と息子がドイツの地で洗礼を受け、クリスチャンになったからです。

佐々木先生との聖書の勉強を通して、妻が神様の言葉を知ることができたことは、大変感謝しています。

そして、教会の皆様温かい支えは、慣れないケルンでの生活をより良いものにしてくれました。何十年にも渡って教会を支えて来た皆様の愛情と献身は、クリスチャンのあるべき姿を学ばせてくれたのです。



様々な思い出の中、毎年一月に行われるバザーは特に印象的でした。初めての二〇一六年

には何も分からず、机を運んだり、値札を付けたり、ドイツ語での案内ができず、ポティランゲージでバタバタしていました。次の年からは準備の過程で人々にアピールできる様な配置などを考え、最終的な寄付を少しでも多く、意味のあるものにしなさいという気持ちで取り組むことができました。このバザーは長年続いているケルン・ボン教会の伝統として、これからも神様の恵みを伝える場になっていくことを祈ります。

私達は日本に帰りますが、教会のウエブサイトの更新を担当することで、少しでも繋がっていることを嬉しく思います。ドイツへの出張がある度、ケルン・ボン教会に立ち寄ることも楽しみにしております。皆様にもつ一度感謝の気持ちを伝えたいです。神様の恵みが溢れかえるように、お祈り致します。

鳥の声と鐘の音+子供の声

藤井 弘子

三月中旬、露のとうは白い花になり、露の葉が地面を覆い始め、リンゴも梨も淡緑の芽が伸びる。種子蒔きにはまだ間があるが、私は暖冬を生き延びた雑草を大急ぎで抜く。花瓶敷きのようにびっしり広がったハコベは、可憐な白い花が終わるとそれが種子になって散り、大変だ。この時期、土仕事をしながら、私の心に浮かぶ言葉がある。「鳥の声と鐘の音」。

時いた豆の上に被せる土の量を尋ねた私へ、お隣りのご主人の答えである。どれくらいか土で種子を覆えばインゲン豆に鳥の声や鐘の音が聞こえるのだろう。そう思いながら種子を土に置くようになった。三五年前にここが住宅地になった頃住んでいた四〇〇〇の子供たちは次々と巣立ち、すっかり寂しくなっていたが、今もつと若い世代の子供たちが春夏秋冬泣いたり喚いたり笑ったり、賑々しく走り回っている。私はそれが嬉しくて仕方がない。

だから、「鳥の声」と、腕時計などない頃から野良で働く人々に時を告げてきた教会の「鐘の音」に、私は「子供の声」を加え、穏やかな陽の光の中でこのひとときに感謝しつつ種子を蒔こう。私はこんな日常が世界中で当たり前になりますように、と祈らずにはいられない。



第三六回ヨーロッパ・キリスト者の集い案内

フランクフルト日本語福音キリスト教会(主催教会)
ヒシヨップ桂子姉

日時:七月二五日(木)〜二八日(日)
場所:ルーマニア クルーシユ・ナポカ

今年はフランクフルト日本語福音キリスト教会とルーマニアに遣わされている宣教師ご夫妻と現地の日本語ができるクリスチャンスタッフとで共同開催されます。場所はトランシルヴァニア州にあるクルーシユ・ナポカという大学町で、そこにあるグラントホテルで開催いたします。

ヨーロッパ・キリスト者の集い史上、三六回目にして初めてルーマニアで開催することになります。実際、今年の二月に現地へ視察旅行をしに行きました。想像とは違い、クルーシユ・ナポカの町自体はとても安全な所です。

一九八九年、ベルリンの壁の崩壊がまさにその象徴であるように、東欧における共産党政権が次々に瓦解していきまし。ルーマニアもその一つですが、チャウシエスク政権時代にルーマニアの教会は非常に迫害を受けました。その迫害を経て教会が経験したりバイバル、成長の歩みなど、ルーマニア人のキリスト者の証言に耳を傾け、クルーシユ・ナポカの町にある教会を訪ねたりします。

住んでいる地域が大変離れた教会が共同で企画運営いたしますので、どうぞこの集いのために祈りでお支えくださいますようお願いいたします。そして一人でも多くの方に参加していただけますよう、今からご予定に入れていただければ幸いです。

◆ 報 告 ◆

◇一月二〇日の礼拝の中で、小宮讚美さんのご次男・晃豊(あきと)ちゃん、二月二四日の礼拝の中では、子ども

礼拝、ママの子育ての学び会等に参加されている佐藤春美さんのご長女咲良(さくら)ちゃんの幼児祝福式を執り行いました。主のお守りの内に健やかに成長されますようにお祈りいたします。

◇二年半共に信仰生活をしてきた張谷廷河兄、麻帆姉、有振君は、転勤の為に三月末に日本に戻られました。日本での信仰生活が祝福されますようにお祈りいたします。尚、教会のホームページ等の更新作業を引き続き担ってくださり感謝いたします。

◇佐々木牧師は宣教報告のために日本に一時帰国いたしました。毎年多くの教会のご理解とご協力を頂き、ご奉仕できました。また留守中の説教は、シュテクレ・ニー宣教師、張谷廷河兄(教会員)、浅野康牧師(BLUM & WORSHPSTUTTGART)、矢吹博牧師(フランクフルト日本語福音キリスト教会)、永山辰原神学生がご奉仕くださいました。

◆ 予 告 ◆

◇新しい集いの案内

四月より、外間久美子姉宅 (Wilhelm) において聖書を学ぶ会を始めます。日時などは牧師にお訊ねください。



◇イースター日独語礼拝&祝会 特別賛美

日時 四月二二日(日) 一四時〜

◇ヴィオラとピアノコンサート

村上淳一郎氏(ケルンフィルハーモニー所属)・はるかさん

日時 四月二八日(日) 一五時三〇〜

◇ペンテコステ日独語礼拝&祝会

日時 六月九日(日) 一四時〜

◇野外礼拝

日時 六月一六日(日) 一一時〜

ケルン・広島長崎公園

《礼拝》

主日礼拝 毎週日曜日・一四時
大人と子どもの合同賛美礼拝 第四日曜日・一四時
子どもの礼拝 第二日曜日・一二時半

《定例集會》

聖書を学ぶ会 第一・第三水曜日・一〇時 牧師宅
読書会 第四金曜日・一〇時 牧師宅
ケルン集會 第二木曜日・一一時

メーアブッシュ集會 シュミット亜弥子姉宅
第二土曜日・一四時三〇分
藤井隼人兄・弘子姉宅

ママの子育ての学び会 第二月曜日・一三時 牧師宅

編集後記

いつも月報をお読みくださりありがとうございます。今回は発行がすっかりと遅くなって申し訳ございませんでした。もつすペイスターを迎える時期となり、「一・二・三月合併号」となる何となく季節外れ? のような感じになってしまいました。一生懸命編集いたしましたので、お目を通して頂けると幸いです。皆様の上にお祈り申し上げます。(佐々木 良子)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

〈主日公同礼拝〉

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00
〈牧師〉 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)
牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

〈ホームページ〉

http://koelnbonn.jp

〈振込口座〉

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF